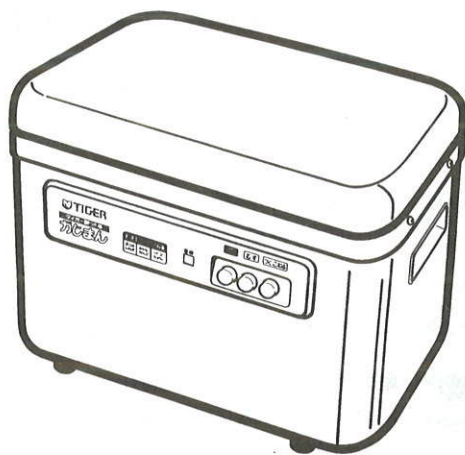


家庭用

SMG

餅つき機
〈^{ちから}カじまん[®]〉
〈^{ちから}カいちばん〉



取扱説明書

保証書つき

このたびは、お買い上げまことにありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書を最後までお読みください。
お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところ
に必ず保管してください。

もくじ	ページ
安全上のご注意	1~2
ご注意とお願い	3~4
各部のなまえとはたらき、特長	5~6
ご使用の手順	7~8
もち米、もちつき機の準備	7~8
むす・つく	9
おもちのまとめ方	10
おもちの保存方法	10
むし台の使い方	11
お手入れの方法	12
おいしいおもちの料理例	13~16
故障かなと思ったら	17
仕様、保証・サービスについて	18
連絡先	19

点検、修理などを依頼されるときなどのために記入しておくとう便利です。

ご購入年月日
年 月 日

ご購入店名

TEL () -

日本国内 100V 専用 (交流 100V 以外の電源では使用できません。)

安全上のご注意


※ご使用前に、この「安全上のご注意」、「ご注意とお願い」(3、4ページ)をよくお読みの上、正しくお使いください。


※ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「危険」「警告」「注意」の3つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。


△警告：誤った取り扱いをしたとき、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

△注意：誤った取り扱いをしたとき、人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。





絵表示の例

 △記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。


 ⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

 ●記号は、行為を強制したり、指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は差し込みプラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。





※お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

 警告	
	●改造しないでください。修理技術者以外の方は分解したり、修理をしないでください。火災・感電・けがの原因となります。修理はお買い上げの販売店、またはタイガーお客様ご相談窓口にご相談ください。
	●水につけたり、水をかけたりしないでください。ショート・感電の恐れがあります。
	●子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで使わないでください。やけど・感電・けがをさせる恐れがあります。

警告

	●電源コードや差し込みプラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。感電・ショート・発火の原因になります。
	●電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工したりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
	●交流100V以外では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

警告

	●差し込みプラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の差し込みプラグを持って引き抜いてください。そうしない場合、感電やショートして発火することがあります。
	●もちを取り出すときは、必ずふきんでうすをつかみ、本体からはずしてください。そうしない場合、やけどの原因となります。
	●不安定なところでは使用しないでください。けがの原因となります。
	●から炊きしたときは、すぐ水を入れしないでください。やけどする恐れがあります。
	●運転中に移動させないでください。けがの原因となります。
	●使用時以外は、差し込みプラグをコンセントから抜いてください。そうしない場合、けがややけど、絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。
	●部品の取付け、取外し及びお手入れするときは、スイッチを切りプラグを抜いてください。そうしない場合、けがをさせる恐れがあります。
	●蒸しているときは、ふた、うすが熱くなりますので、注意してください。やけどする恐れがあります。

ご注意とお願い

使用前

⚠ 警告

⊘ 交流100V以外では
使用しない

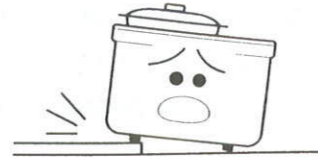
火災、感電の原因
になります。



⚠ 注意

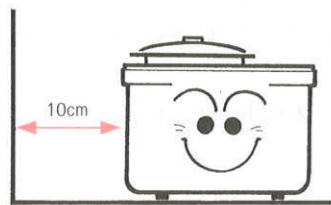
⊘ 不安定なところでは使用
しない

けがの原因になります。



本体と壁の間を離す

壁面から10cm以上離してく
ださい。近づけすぎると壁
のよごれや故障の原因にな
ります。



水のかかる所や、ぬれ た床面、火気の近くで は使用しない

感電や漏電、本体の変形や火
災・故障の原因になります。



熱に弱いもの の上では使用しない

たたみ、じゅうたん、テー
ブルクロスなどの上で使用
するとよごれたり、けが・
火災の原因になります。

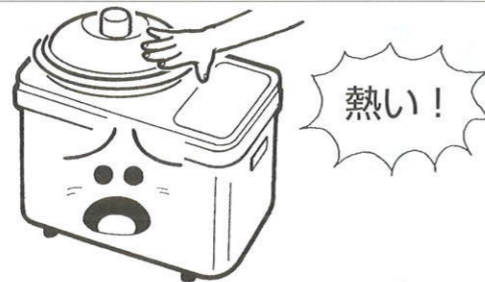


使用中

⚠ 注意

⊘ 蒸しているときは、ふた、
うすが熱くなるので注意

やけどする恐れがあります。



回転中の羽根に手を触れない

ケガをすることがあります。



うすやふたなどはていねいに 取り扱う

変形すると故障の原因になります。



使用中

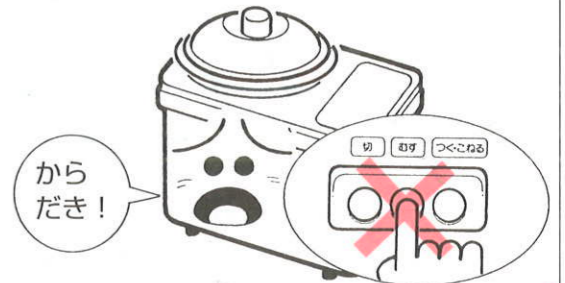
金属製のへら、しゃもじは使用しない

うすのフッ素樹脂加工面が傷ついたり、はが
れたりして、うすの腐食やもちがくっつく原
因になります。



からだき、から運転はしない

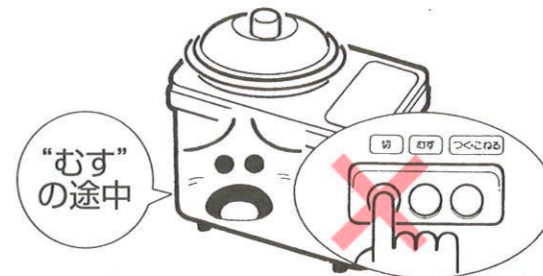
ボイラーに水を入れずに「むす」のスイッチボ
タンを押したり、うすにもち米などを入れず
に「つく・こねる」のスイッチボタンを押さな
いでください。やけどや故障の原因になります。



“むす”の途中で「切」のボタンを 押さない

むしあがりが悪くなります。

※停電などで5分以上電気が切れた時は、「切」
のスイッチボタンを押し、もち米を別のむ
し器に移しむしてください。



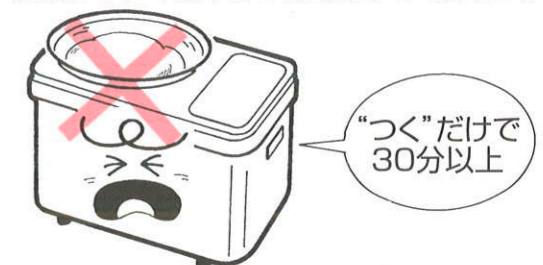
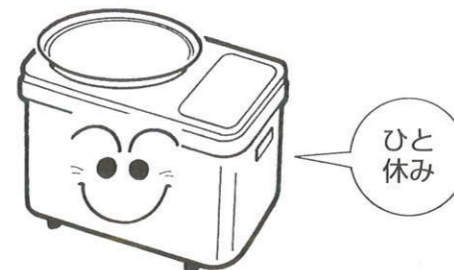
“つく・こねる”を切った後、再度 “つく・こねる”のスイッチボタンを 押さない

もちが羽根にからまり、モーターがまわらな
くなってモーターが異常過熱したり、もちが固ま
ってうすや羽根が取れなくなることがあります。
※停電の時は、「切」のスイッチボタンを押し、
すぐにもちを取り出し、うすや羽根をはずし
てください。(一度取り出したもちは、再度
つくことはできません)

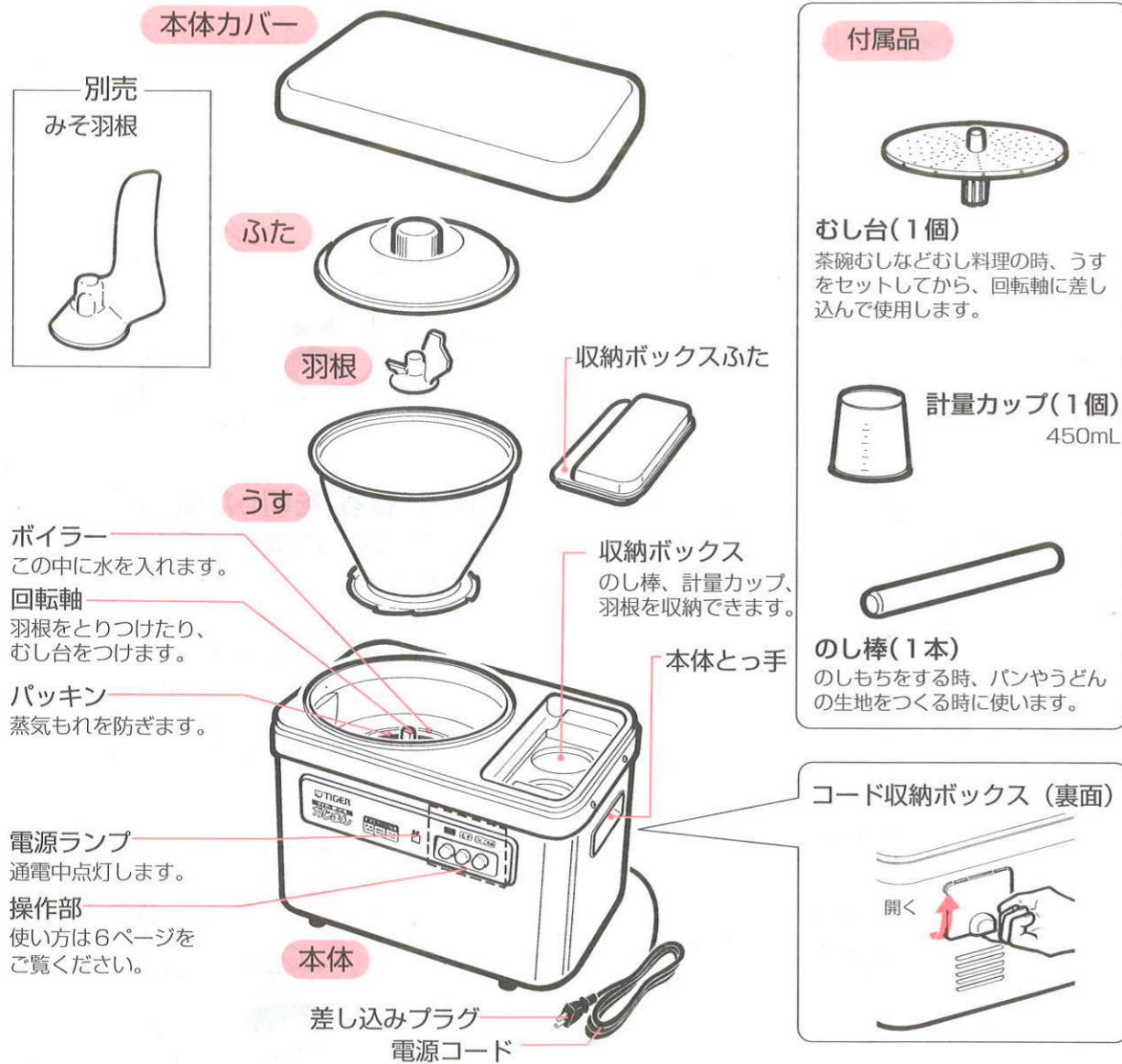


連続使用は30分以内にする

別のむし器でもち米をむし、「つく」だけで
30分以上連続して使用しない。モーターが
焼けるなど故障の原因になります。
連続してつく場合は1時間あけてください。



各部のなまえとはたらき



特長

■ 1台でむす・つく・こねるの3役。3とおりの使い方ができます。

むす

おこわ、さらにむし台を使えば、茶碗むし、ふかし芋などいろいろなむし料理ができます。

むす→つく

もち米をむして、そのままつくことができます。草もちやお団子などもつくれます。

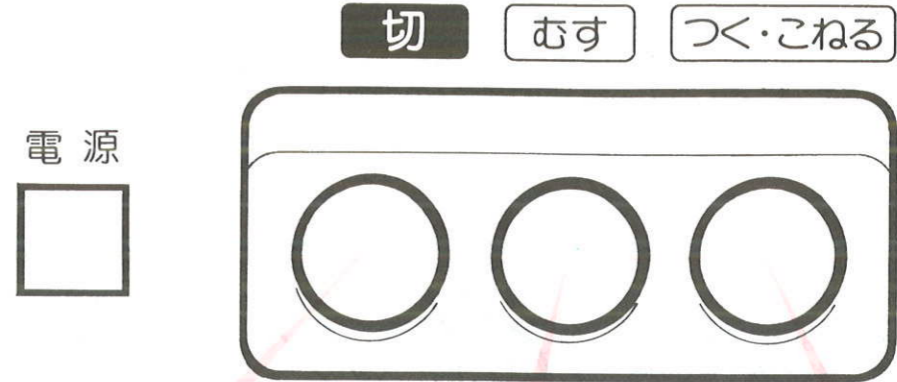
つく・こねる

セイロなどで別にむしたもち米をついたり、パンやうどん・そばの生地をこねることができます。生地はあらかじめ軽く混ぜ合わせて、まとめておいてください。

■ うすはこびりつきにくく、お手入れの簡単なフッ素樹脂加工です。

■ 羽根や付属ののし棒、計量カップを収納できる収納ボックスつきです。

操作部



切	むす	つく・こねる
むしあがり、つきあがりの時に押します。	もち米をむす時、むし料理の時に押します。 ※使い方は、9ページをご覧ください。	もち米をつく時や、パン、うどんの生地をこねる時に押します。 ※使い方は、9ページをご覧ください。

うすの取り付け方



- ① うすをボイラーの上に乗せすぐのせます。
 - ② 下に押さえるようにして「しめる」の方向に止まるまで回し、しっかり取り付けます。
- うすがゆるんでいると蒸気がもれ、うまくむしあがりません。また、うすと羽根がすれもちが黒くなることがあります。




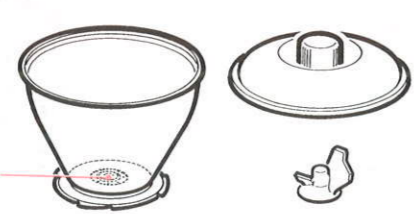
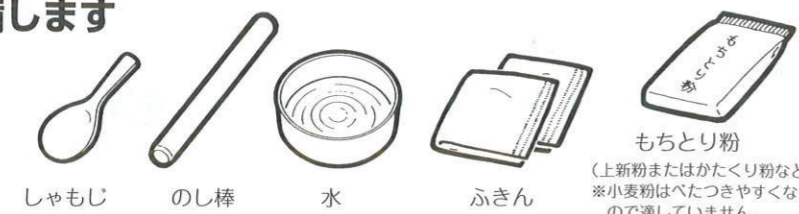
うすのはずし方


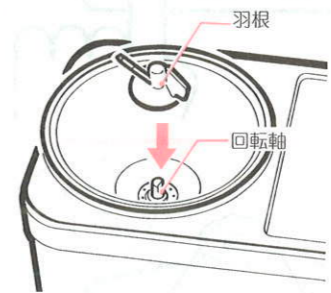
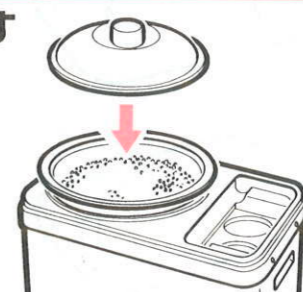


- ① 「切」のスイッチボタンを押します。
- ② 「はずす」の方向に回し、うすを取り出します。

⚠ 注意

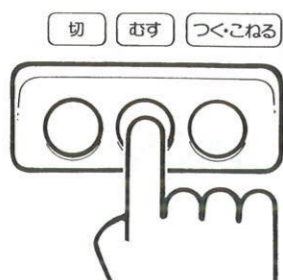
❗ もちを取り出すときは、必ずふきんでうすをつかみ本体からはずしてください。そうしない場合、やけどの原因になります。

手順	ご注意
<p>1 もち米を計ります</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1回につけるもちの量は1.8~3.6L (1升~2升) ●もち米は産地によって品質に差があります。粒がそろっていて丸みがあり、乳白色でツヤもあり、くだけのないもち米を選んでください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●もち米は規定の分量を必ず守ってください。
<p>2 洗米します</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ヌカ分が残らないよう、洗米は充分にしましょう。最初はたっぷりの水で、手早くトギ洗いをするのがコツです。その後、水が澄むまで充分に洗います。  <p>最初は手早く</p>	
<p>3 水に浸します(6~12時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●冬期は水温が低いので、やや長めに浸します。  <p>たっぷり吸水させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●水に浸す時間が不足すると、うまくむしあがらず、おいしいもちができません。 ●夏期は特に臭いがつきますので、約5時間ごとに水を取りかえてください。
<p>4 水切りします</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水に浸しておいたもち米をざるなどに移し、約30分程度水切りします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水切りが不充分だと、うまくむせなかったり、やわらかいもちになったりします。 ●プラスチック製のざるは水切りが悪いので、ざるをふって水切りをしてください。
<p>5 うす、ふた、羽根を洗います</p> <ul style="list-style-type: none"> ●うすの蒸気穴に米粒やもちの残りがついていると、むしムラの原因になります。きれいに取り除いてください。  <p>蒸気穴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●金属製のたわし、みがき粉などは傷がつきますので、使用しないでください。
<p>6 その他の用具を準備します</p> <ul style="list-style-type: none"> ●金属製のへらやスプーンはうすのフッ素樹脂加工面を傷つけます。プラスチックまたは木製のしゃもじをご使用ください。  <p>しゃもじ のし棒 水 ふきん もちとり粉 (上新粉またはかたくり粉など) ※小麦粉はべたつきやすくなるので適していません。</p>	

手順	ご注意																								
<p>7 パッキンを確認します</p>  <p>パッキン(黒)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●パッキンの取り付けが不充分だと、むせません。 																								
<p>8 ボイラーに水を入れます</p> <ul style="list-style-type: none"> ●もち米の量に合わせて付属の計量カップで水を正しく計って入れます。  <p>450mL 200mL</p> <p>静かに</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水のかわりにお湯を入れると電力が節約できます。 <p>■むし水の標準量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>もち米</th> <th>合数</th> <th>10</th> <th>12</th> <th>14</th> <th>16</th> <th>18</th> <th>20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>体積(約):L</td> <td>1.8</td> <td>2.16</td> <td>2.52</td> <td>2.88</td> <td>3.24</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>むし水の量:mL</td> <td>400</td> <td>490</td> <td>570</td> <td>620</td> <td>650</td> <td>700</td> </tr> </tbody> </table> <p>※もち米は洗米前の量です。</p>	もち米	合数	10	12	14	16	18	20		体積(約):L	1.8	2.16	2.52	2.88	3.24	3.6		むし水の量:mL	400	490	570	620	650	700	<ul style="list-style-type: none"> ●ボイラーから水があふれないよう、静かに入れてください。 ●水の量は標準量です。お好みに合わせて加減してください。
もち米	合数	10	12	14	16	18	20																		
	体積(約):L	1.8	2.16	2.52	2.88	3.24	3.6																		
	むし水の量:mL	400	490	570	620	650	700																		
<p>9 うすを取りつけます</p> <ul style="list-style-type: none"> ●6ページの「うすの取り付け方」を参照し、正しく取り付けてください。 																									
<p>10 羽根を取りつけます</p> <ul style="list-style-type: none"> ●羽根の穴に米粒やもちの残りがついていないか確かめます。 ●羽根と回転軸の切りカキ位置をきっちり合わせ、まっすぐ奥まで差し込みます。  <p>羽根 回転軸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●もちをつく時は、むし台をいしません。 ●羽根の差し込みが不充分ですと、もちをついている途中で羽根が抜け、羽根を損傷したり、もちがつけなくなります。 																								
<p>11 うすにもち米を入れます</p> <ul style="list-style-type: none"> ●よく水切りしたもち米をうすに入れ、表面を平らにしてふたをします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●もち米を入れたあとは、うすを動かしたり、持ち上げたりしないでください。もちがつけなかったり、羽根が損傷する原因になります。 ●ふたのかわり本体カバーを使用しないでください。 																								

1 むします

- ①スイッチが「切」になっているか確認します。
 - ②差し込みプラグをコンセントに差し込みます。
 - ③「むす」のスイッチボタンを押します。
- 電源ランプが点灯します。



むしあがり時間の目安
約40~50分(2升の場合)

- 「つく・こねる」のスイッチボタンを押さないでください。
- むしている途中で何度もふたをあけないでください。むしムラの原因になります。

2 むしあがり、ブザーが鳴ります

- ブザーが鳴ったら「切」のスイッチボタンを押します。

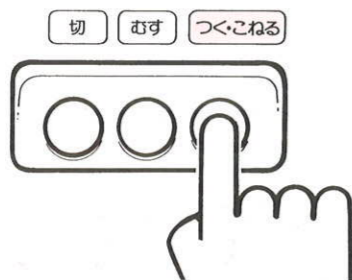


できるだけ早く次の操作
に移ってください。

- 「むす」のままにしておくとブザーが鳴ったり止まったりを繰り返します。

3 つく・こねる のスイッチボタンを押します

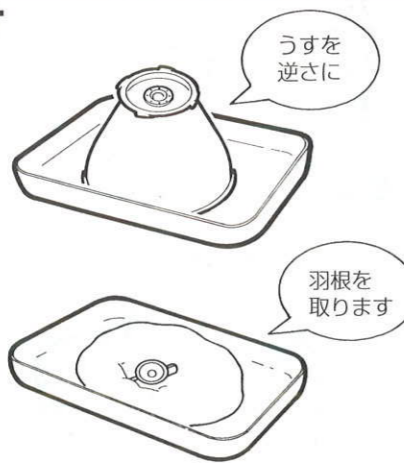
- ①ふたをとりはずします。
 - ②「つく・こねる」のスイッチボタンを押します。
- 羽根が回転して約10分でつきあがります。



- ふたをとる時は蒸気に充分ご注意ください。
- 少量のもちをつく時は、水でぬらしたしゃもじで押さえて、手助けしてください。
- もち米の種類や量によってつきあがる時間が異なりますので、お好みに合わせて加減してください。
- つきすぎるとコシのないもちになりますので、ご注意ください。

4 もちを取り出します

- ①「切」のスイッチボタンを押します。
- ②うすを「はずす」の方向に回し、うすごと取り出します。(6ページの「うすのはずし方」を参照)
- ③もちとり粉をしいた本体カバーに、はずしたうすをしばらく逆さにしておくと、自然にもちが落ちます。
- ④水で手をぬらして、羽根を取り出します。



- もちがつきあがるころ、本体が多少振動することがありますが、これはねばりのできたもちが回転しながら移動するため、製品の不具合や故障ではありません。
- うすをはずす場合は、必ずスイッチを切ってください。
- 羽根やうすは熱くなっていますので、ご注意ください。

おもちのまとめ方

丸もち	のしもち	なまこもち
<p>①手にもちとり粉や水をつけ、つきあがったもちを適当な大きさにちぎります。</p> <p>②ちぎった方を下にして手のひらで丸めます。</p>	<p>①もちとり粉をしいた本体カバーにつきあがったもちを取り出します。</p> <p>②手にもちとり粉や水をつけ、もちを平らにのびします。</p> <p>③のし棒で平らに仕上げます。</p> <p>④1~2日おいて少しかたくなったところで四角に切り分けます。</p>	<p>①つきあがったもちをいくつかに分け、高さ5cm程度のなまこ型に整えます。</p> <p>②1~2日おいて少しかたくなったところで、好みの厚さに切ります。</p>

おもちの保存方法

そのままの状態
で保存する場合

●室温に長くおくと乾燥してヒビ割れたり、湿度が高いとカビがはえやすくなります。

●数日で食べられる程度の量なら、丸もちかのをしもちにして、もちとり粉をよくはらってからポリ袋か密閉容器に入れ、冷蔵庫で保存します。

●もちをなまこ型にして、2mm程度の厚さに切り、風通しのよい日陰でよく乾燥させます。その後は缶などの容器に入れ、湿気の少ないところで保存します。

乾燥させて
保存する場合
(かきもち)

●長く保存したい時は、ポリ袋に入れて冷凍室に入れます。

●かきもちは、焼いたり、油で揚げたりして食べます。ごまや桜えび、青のりなどを入れ、少し塩味をつけたものを焼くと簡単な手づくりのおやつになります。

むし台の使い方

手 順

ご 注 意

1 ボイラーに水（または湯）を入れます



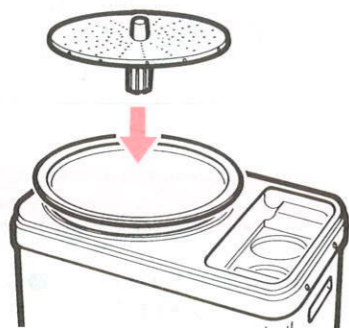
2 うすを取りつけます

- 6ページの「うすの取り付け方」を参照し、正しく取り付けます。

- うすがゆるんでいると蒸気がもれ、うまくむせません。

3 むし台を取りつけます

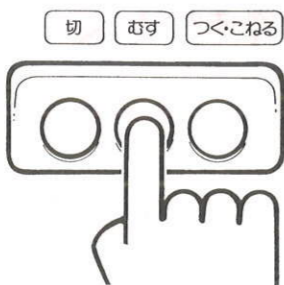
- むし台を回転軸に合わせて差し込みます。



- おこわ、上新粉などをむす時は、羽根を取りつけてください。むし台は使いません。

4 料理をのせ、むします

- ①茶碗むしや芋など、むすものをむし台にのせます。
- ②「むす」のスイッチボタンを押します。



- 「つく・こねる」のスイッチボタンを押さないでください。
- むし不足など水が足りない場合、お湯を注ぎ足してください。この時、蒸気が出ますのでご注意ください。

- ③ふたをします。



- ④ブザーが鳴り、むしあがったら「切」のスイッチボタンを押します。

お手入れの方法

警告

⊘ 水につけたり、水をかけたりしない。

ショート・感電のおそれがあります。



本体

洗剤をうすめたお湯を含ませたふきんでふきます。



うす・羽根

くっついたものは、乾燥すると簡単に取れます。洗う場合は、洗剤をうすめたぬるま湯のなかでやさしいスポンジで洗います。



- 必ず差し込みプラグをコンセントから抜き、本体が冷えてからお手入れを始めてください。



- 洗剤は台所用合成洗剤(食器用・調理器具用)をご使用になり、使用後は洗剤分をよくふきとってください。
- 金属製のたわしやみがき粉、ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。



ボイラー

もちの残りかすなどがたまることがありますので、使用後必ずお手入れをしてください。こびりついていたら、お湯をかけると簡単に取れます。その後、乾いたふきんでふきます。



本体カバー・ふた・むし台・のし棒など

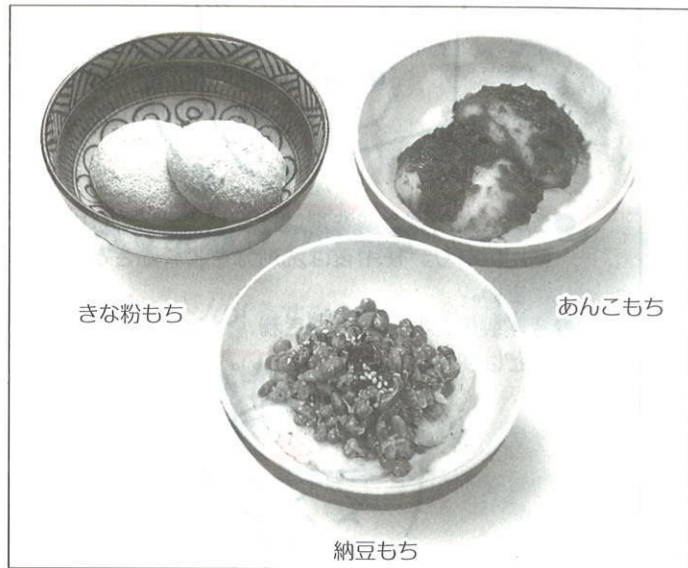
洗剤とスポンジできれいに洗ってください。



おいしいおもち料理例

※<材料>に出てくる「カップ」は200mLの計量カップを、「大さじ」は15mL、「小さじ」は5mLの計量スプーンを基準にしています。

つく



きな粉もち

あんこもち

納豆もち

きな粉もち

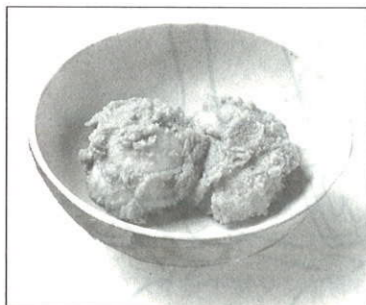
<材料>
 きな粉……………大さじ 5
 砂糖……………大さじ 5
 塩……………少々
 <作り方>
 きな粉、砂糖、塩を合わせてよく混ぜ、もちにからませる。

納豆もち

<材料>
 納豆……………1包 (100g)
 青ねぎ……………1本
 練りからし……………少々
 しょうゆ……………大さじ 1
 白ごま……………少々
 <作り方>
 ①納豆、青ねぎはそれぞれ粗いみじん切りにする。
 ②納豆、青ねぎ、練りからしを混ぜ、しょうゆで味つけし、もちにからませ、いった白ごまをふりかける。

あんこもち

<材料>
 あん……………適量
 <作り方>
 あんをおもちにからませる。

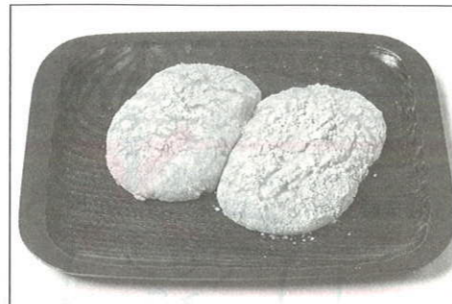


ずんだもち

<材料>
 枝豆(さやから出したもの)……………1 カップ
 砂糖……………大さじ 4
 塩……………ひとつまみ

<作り方>
 ①枝豆はゆでてさやから出し、すり鉢でよくすりつぶす。
 ②鍋に①を入れ砂糖を加えて火にかけて、トロリとなってきたら塩を加えて仕上げる。
 ③②をおもちにからませる。

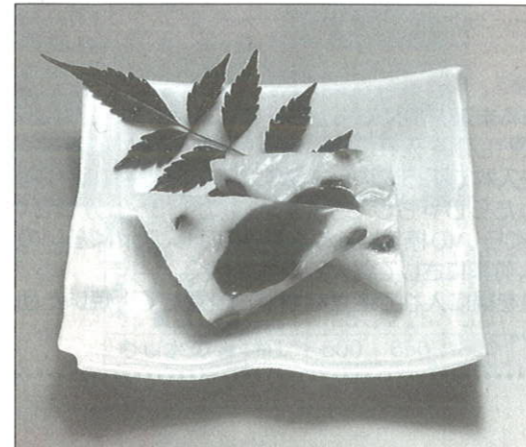
いももち



<材料>
 もち米……………8合
 さつまいも(正味)……………600g
 塩……………小さじ 2 1/2
 きな粉……………大さじ 8
 砂糖……………大さじ 8
 塩……………少々
 むし水……………400mL

<作り方>
 ①もち米を洗い、6時間以上水に浸した後、ざるに移し、約30分水切りする。
 ②さつまいもは皮をむき2cm角に切り、水につけてアクをぬいておく。
 ③ポイラーにむし水を入れ、うすと羽根を取りつける。
 ④水切りしたもち米をうすに入れ、その上にさつまいもをのせてむす。
 ⑤むし上がった塩を加えてしゃもじで手助けしながら約10分つく。
 ⑥つき上がった手に水をつけて丸め、きな粉と砂糖、塩を合わせたものをまぶす。

黒みつ豆もち



<材料>
 もち米……………1升 (10合) 黒砂糖……………200g
 あずき……………200g 水……………3/4 カップ
 むし水……………400mL

<作り方>
 ①もち米を洗い、6時間以上水に浸した後、ざるに移し、約30分水切りする。
 ②あずきは洗った後、たっぷりの水で少しかためにゆでる。
 ③ポイラーにむし水を入れ、うすと羽根を取りつける。
 ④水切りしたもち米をうすに入れてむす。
 ⑤鍋に黒砂糖と水を入れて火にかけ、かき混ぜて溶かし、しばらく煮てから冷ましておく。
 ⑥もち米がむし上がったたら、米粒がなくなるまで約9分つき、最後にゆであずきを加えてふたをし、約1分つく。取り出して、のし棒で平たく伸ばす。
 ⑦やわらかいうちに好みの形に切り、⑤の黒みつをかける。

くるみもち



<材料>
 もち米……………1升 (10合)
 むきくるみ……………120g
 塩……………大さじ 2
 むし水……………400mL

<作り方>
 ①もち米を洗い、6時間以上水に浸した後、ざるに移し、約30分水切りする。
 ②ポイラーにむし水を入れ、うすと羽根を取りつける。
 ③水切りしたもち米をうすに入れてむす。
 ④むきくるみはフライパンでよく炒り、冷ましてから渋皮をとる。
 ⑤もち米がむし上がったたら塩を加えてつき、もち米がつぶれて粘りがでてきた頃に粗くきざんだくるみを少しずつ入れて、しゃもじで手助けしながらつき上げる。

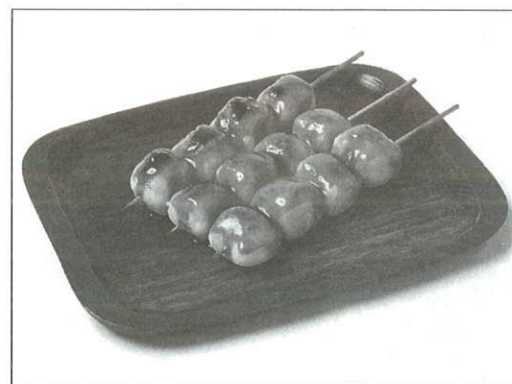
草もち



<材料> (40個分)
 白玉粉……………120g 塩……………少々
 上新粉……………600g よもぎ (または春菊)
 砂糖……………160g 200g
 むるま湯……………600mL こしあん……………1kg
 むし水……………400mL

<作り方>
 ①よもぎは葉先の部分だけつみとり、塩を加えた熱湯でやわらかくゆで、冷水にとって水気を絞りこく細かいみじん切りにする。
 ②ボールに白玉粉を入れ、むるま湯200mLを加え、なめらかに溶く。上新粉、砂糖、塩、残りのむるま湯の順に加え木しゃもじで混ぜ合わせる。
 ③ポイラーにむし水を入れ、うすと羽根を取りつける。
 ④うすに②を入れて平らにのし、透明になるまでむす。
 ⑤むし上がったたら①のよもぎを加えてしゃもじで手助けしながら5~6分つき40等分する。あんも40等分して丸めておく。
 ⑥もちを丸く平らにのばし、中央にあんをのせて手のひらで形を整え、合わせめを下にする。

みたらし団子



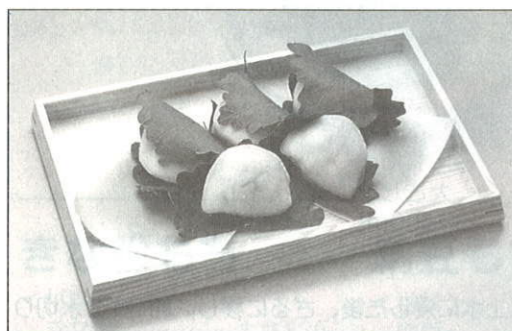
<材料>(40本分)

上新粉	500g	たれ	砂糖	大さじ 8
ぬるま湯	450mL		しょうゆ	大さじ 6
むし水	350mL		水	1 カップ
			かたくり粉	大さじ 2

<作り方>

- ①上新粉にぬるま湯を加えてざっと混ぜてひとまとめにする。
- ②ポイラーにむし水を入れ、うすと羽根を取りつける。
- ③うすに①を入れて平らにし、透明になるまでむす。
- ④むし上がったらしゃもじで手助けしながら5~6分つき、直径2cmぐらいの棒状に丸めながらのばし、2cmぐらいの長さに切り、竹串にさして弱火で両面を焼く。
- ⑤たれの材料を鍋に入れて混ぜながら一度煮たて、焼いた団子にかける。

かしわもち



<材料>(40個分)

上新粉	720g
かたくり粉	40g
ぬるま湯	600mL
こしあん	800g
かしわの葉	40枚
むし水 1回目	400mL
2回目	100mL

<作り方>

- ①かしわの葉は沸騰した湯で10~20分ゆでて水にとり、しばらくさらしておく。
- ②あんは40個に丸めておく。
- ③上新粉とかたくり粉を混ぜ、ぬるま湯を少しずつ加え耳たぶぐらいのやわらかさにこねる。
- ④ポイラーにむし水を入れ、うすと羽根を取りつける。
- ⑤うすに③の生地をひとにぎりずつちぎり、うすくのばして入れ、透明になるまでむす。
- ⑥むし上がったらしゃもじで手助けしながら5~6分つき40等分する。
- ⑦手に水をつけて小判型にのばし、あんをのせて2つ折にし、まわりをおさえてとじる。
- ⑧ポイラーにむし水を入れ、うすとむし台を取りつける。
- ⑨むし台の上にぬれぶきををしき、⑦を並べてむす。
- ⑩冷めたらかしわの葉の表を内側にして巻く。

雑煮



■関東風雑煮

<材料>(4人分)

切りもち	4切
えび	4尾
生しいたけ	4枚
大根	5cm
里いも(小)	8個
木の芽	4枚
だし汁	3 ¹ / ₂ カップ
塩	小さじ 2/3
しょうゆ	小さじ 1

<作り方>

- ①大根、里いもは食べやすい大きさに切って下ゆでしておく。
- ②えびはさっと下ゆでしておく。
- ③切りもちはこんがり焼いておく。
- ④鍋にだし汁を入れ、大根、里いも、生しいたけを加えて火にかけ、材料がやわらかくなれば塩、しょうゆで味をととのえる。
- ⑤わんにもちとえびを盛り、④を注ぎ木の芽を飾る。

■関西風雑煮

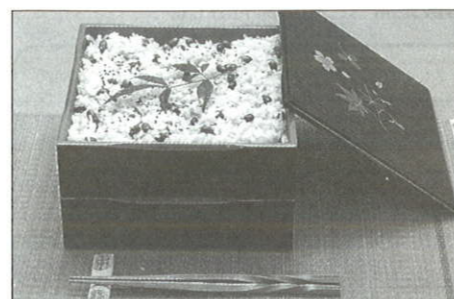
<材料>(4人分)

丸もち	4個
里いも(小)	8個
大根	5cm
にんじん	5cm
しめじ	1パック
かまぼこ	8切
三つ葉	4本
だし汁	3 ¹ / ₂ カップ
白みそ	80g

<作り方>

- ①里いも、大根、にんじんは食べやすい大きさに切って下ゆでしておく。
- ②丸もちはやわらかくゆでておく。
- ③鍋にだし汁を入れ、里いも、大根、にんじん、しめじ、かまぼこを加えて火にかけ、材料がやわらかくなれば白みそを加える。
- ④わんにもちを盛り、③を注ぎ、三つ葉をのせる。

お赤飯



<材料>

もち米	2升(20合)
あずき	400g

■むし水の標準量

もち米	合数	10	15	20
体積(約):L		1.8	2.7	3.6
重量(約):kg		1.5	2.25	3.0
むし水の量:mL		500	650	800

<作り方>

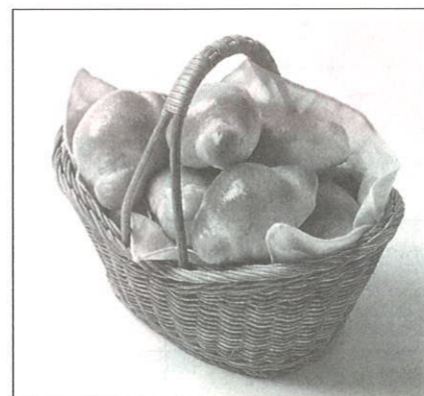
- ①あずきはたっぷりの水を加えて火にかけ、一度煮たせて水を捨て、新しい水をたっぷり加えて再び火にかける。沸騰したら弱火にしてかためにゆで、ゆで汁は別にしておく。
- ②もち米は洗ってあずきのゆで汁(ゆで汁からもち米が出るようなら水を加える)に6時間以上浸した後、ざるに移し約30分水切りする。つけ汁は打ち水用にとっておく。
- ③ポイラーにむし水を入れ、うすと羽根を取りつける。
- ④水切りしたもち米をうすに入れ、その上にあずきをのせてむす。
- ⑤蒸気が出はじめたら、つけ汁で全体に打ち水(1回180mL)をし5分おきぐらいにくり返してむし上げる。

こねる

バターロール

<作り方>

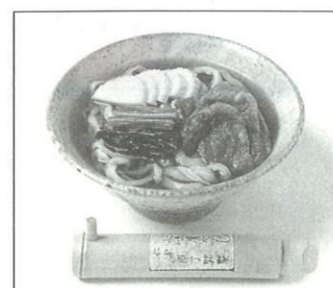
- ①牛乳は1度過熱し、冷ましておく。
- ②器にドライイースト、砂糖を入れ、ぬるま湯を加えて10~15分おく。
- ③バターは冷蔵庫から出し、常温にもどしておく。
- ④ボールに牛乳を入れ砂糖、塩を溶かし、卵を加えてよく混ぜ合わせ、上からふるった粉を入れて軽く合わせ、②のイーストを加えて混ぜ合わせる。
- ⑤④にバターを加え、軽く全体を混ぜ合わせる。
- ⑥うすと羽根を取りつけ⑥を入れ、約20分こねる。
- ⑦第1発酵/サラダ油をうすくぬったボールに⑥の生地をひとまとめにして入れ、ラップをして約1~2時間おき2~3倍に発酵させる。
※こねられている時の余熱で湯せんする必要はないが、室温が低い時は25℃ぐらいのあたかい場所に移す。発酵終了は指で押してみても、くぼみがかたならないようならよい。
- ⑧ガス抜き/ボールの中で強く5~6回こねてガス抜きをする。
- ⑨ベンチタイム/ガスを抜いた生地をまな板に取り出し、40等分に切る。1つ1つを手のひらで小さく丸めて並べ、ふきんをかけて15分おく。
- ⑩成形/⑨の生地をころがしながら、細長い円すい型に形づくり、めん棒で三角形にのばし、長い方から巻いてバターロールの形にする。
- ⑪第2発酵/天板に適当な間隔を置いて⑩を並べ、軽く霧を吹き、37~38℃に保って、約40分発酵させる。
- ⑫焼く/⑪に照り出し用卵をぬり、180~190℃のオーブンに入れ、約13~15分焼く。



<材料>(40個分)

強力粉	1kg
ドライイースト	大さじ 2 ² / ₃
砂糖	ひとつまみ
ぬるま湯(40℃)	200mL
砂糖	100g
牛乳	300mL
塩	小さじ 2
卵	2個
バター	160g
照り出し用	
卵	1個
水	少々

うどん



<材料>(8人分)

強力粉	600g
薄力粉	400g
塩	大さじ 2
水	600mL

※加える水の量は粉によって多少加減する。

<作り方>

- ①強力粉と薄力粉を合わせてふるっておく。
- ②ボールに①を入れ中央をくぼませ、塩をとかした水を加えて、中央から少しずつ混ぜ全体をざっとまとめる。
- ③うすと羽根を取りつけ、②を入れ、約20分こねる。
- ④③をラップに包み冷蔵庫で2~3時間ねかせる。
- ⑤まな板に打ち粉(強力粉)をし、約3mm厚さにのばす。
- ⑥のばした生地に多めに打ち粉をしてびょうぶたたみにし、端から3mm幅に切っていく。
- ⑦切っためんをほぐし、余分な打ち粉をはたいて、たっぷりの熱湯に少しづつほぐして入れ、約10分ゆでる。
- ⑧ゆで上がったら水洗いしてぬめりをとる。